

あ い さ つ

エコチル調査 福島ユニットセンター
センター長 橋 本 浩 一

～世界的国家プロジェクトの支え～

日頃はエコチル調査にご理解、ご協力を賜りまして感謝申し上げます。平成26年度のエコチル調査福島ユニットセンターの活動報告書をお届けします。

東日本大震災の直前に開始されたエコチル調査は、平成24年10月からの調査地域の全県下への拡大を経て、平成27年1月で満4年となり、いよいよ5年目に突入しました。最初の年に生まれた児は4歳となり、幼稚園に入園する子ども達もいます。妊婦さんの参加者登録においては、全国では目標の10万人を達成し、福島県では参加登録期間の妊婦さんの「お2人に1人」にあたる13,134人にご協力をいただきました。昨年12月までに出産が終了し、12,000人を超す子ども達と約8,000人の父親が参加されています。全15ユニット最多の参加者とともに、本調査はフォローアップを中心とする13年間の新たなステージへと本格的に乗り出しました。半年ごとの質問票の回収率は概ね90%であり、常に全15ユニットなかで上位グループで推移しています。最多の参加人数と高い質問票回収率は、福島県のご家族の皆さまの本調査への大きな期待を裏付けるもので、改めて責任の重さを感じています。また、昨年10月からは、全体の5%の方を無作為に選び、ご協力をお願いする詳細調査が開始されました。インフォームドコンセントの後に昨年11月からご自宅での環境測定、そして本年4月からは病院等での医学的検査、精神神経発達検査を実施しています。

環境省がエコチル調査を実施するきっかけとなったのは、1997年に米国マイアミで開催されたG8環境大臣会合において「子どもの健康と環境」に関する宣言(マイアミ宣言)が出されたことによります。その後、世界でこの問題の重要性が再認識され、日本、デンマーク、フィンランド、アメリカが国家プロジェクトとして子どもの健康に関する疫

学研究に取り組んできました。アメリカのNational Children's Studyは予算的実現性と科学的観点から、昨年12月に中止となりました。このような状況下で、改めて日本のエコチル調査は全世界から注目され、そして期待されています。

福島のご家族の一人おひとり、そして医療機関、行政機関の方々など関係者のご理解とご協力が、世界的な国家プロジェクトであるエコチル調査を支えています。関係者の皆さまと立ち止まることなく、一緒に福島の子どもたちの成長を見守り、歩み続けて行きたいと存じます。

平成27年6月

